

いたがく通信



発行：平成26年9月吉日 第118号
板倉学園 板倉スクール 78-2458

朝夕の涼気に秋の気配が感じられる昨今ですが、ご家庭の皆様には、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。当塾の学習指導にいつも一方ならぬお力添えにあずかり、誠にありがとうございます。

今月号では平成27年度新潟県高校入試の学校独自検査についてご案内申し上げます。

教務からのご連絡

学校独自検査について

来年より、新潟県高校入試のシステムが大きく変わり、従来までの入試5教科に加え「学校独自検査」というものが実施されるということは皆様すでにご存知だと思います。

この学校独自検査とは、その名の通り、各高校が独自に作成・実施する個別の試験となります。つまり入試5教科の他に、自分の志望校の学校独自検査対策も行わなくてははいけないので、志望校を早めに決定することが重要になります。

高校	調査書と入試の比重	独自検査	配点
高田	3 : 7	筆頭検査A	100点
高田北城	3 : 7	筆頭検査B	100点
高田農業	4 : 6	PRシート	100点
上越総合技術	4 : 6	集団面接	100点
高田商業	4 : 6	個人面接	100点
有恒	4 : 6	集団面接・PRシート	100点
新井	3 : 7	PRシート	100点
糸魚川	3 : 7	筆頭検査B	100点
糸魚川白嶺	4 : 6	PRシート	100点
海洋	4 : 6	個人面接・PRシート	200点

検査は「筆答検査A」・「筆答検査B」・「PRシート」・「面接」の4種類となります。次ページに、それぞれの検査の内容をまとめました。

(新潟県教育委員会 HP より転載、面接についての記述は HP にありません)



- ① 筆答検査 A： 英語の文章や数理的な課題を与え、それを読み取る力と自分の考えや意見をまとめる力、論理的な思考力をみる。検査時間は 60 分間。
- ② 筆答検査 B： 日本語の文章を与え、その要旨を正確に理解する力と、与えられた問題に対する思考力・判断力・表現力を見る。検査時間は 45 分間。
- ③ PR シート： 中学校で取り組んできたことや、高校生活への意欲、自分をアピールすることなど、いくつかの質問に対して、文章で答える。

内容について見てみると、PR シートは良いとして、筆答検査 A・B は具体的にどのようなものか想像しづらいかと思われます。具体的には、筆答検査 A は英語と数学の難問が、筆答検査 B は小論文のようなものが、それぞれ出題されるものと想定されます。筆答検査に関しては、問題例を県教委がインターネット上で公開していますので、そちらもぜひご参照ください。

学校独自検査の配点・比重について

では次に、学校独自検査の配点比重はどれほどなのか、その配点について解説いたします。まずは、平成 27 年度新潟県公立高校入試の配点をまとめてみます。

①平成 27 年度新潟県高校入試の配点について

(ア) 調査書(135 点満点)を 1000 点にします(7.4 倍する)

(イ) 学力調査(100 点満点×5 科目の 500 点満点)を 1000 点にします(2 倍する)

→(ア)と(イ)を 3:7、もしくは 4:6 を、学校に応じた比率で振り分けます。

3:7 の場合、調査書の満点は 300 点、学力調査の満点は 700 点、

4:6 の場合、調査書の満点は 400 点、学力調査の満点は 600 点

どちらの場合も、調査書と入試の合計得点は 1000 点満点となります。

この得点を(ウ)とします。

(エ) 学校独自調査の点数(上越地区の主な高校はすべて 100 点満点で、海洋高校のみ 200 点)

(ウ)と(エ)を合計した点数(1100 点満点、海洋高校は 1200 点満点)が、合否の判断とされます。

つづいて、学校独自調査の比重について解説いたします。



② 学校独自調査の比重について

調査書と入試問題の比率が 3:7 の高校を見てみると、

入試問題(5科目)の配点は 700 点満点となります。

従って 1 科目あたり実質 140 点満点となります。(700÷5=140)

比率 4:6 の高校であっても、1 科目あたり 120 点の計算となります。(600÷5=120)

よって、学校独自調査の 100 点という数字は、

入試問題の 1 科目がもつ点数よりも低い比重となります。

全体の合計得点である 1100 点に占める学校独自調査の割合は、

$100 \div 1100 \div 0.09$ 、つまり約 9%の配点となります。

(ただし海洋高校は比率が 4:6 で、学校独自調査が 200 点満点ですので、

学校独自調査のほうが 1 科目あたりの配点よりも高くなります)

全体の合計得点である 1200 点に占める学校独自調査の割合は、

$200 \div 1200 \div 0.16$ 、つまり約 16%となります。

まとめ

来年の入試に関しては、独自調査は高校ごとに異なる試験を行うわけですから、志望校を早めに決定し、それに応じた対策を行うことが重要になってきます。しかしながら、学校独自調査の対策はもちろん大切ではありますが、そうは言っても入試 5 教科の比重が(少なくとも来年度の平成 27 年度)に関しては、いまだに一番大きいわけですから、これまでどおりの、国・数・英・社・理の学習が基本となることには変わりがないものと考えられます。

ただし学校独自調査の配点は、各高校が独自に、100~500 点の範囲で決定することができますので、再来年度(平成 28 年度)以降の配点が大きく変化することは考えられます。

中学 1・2 年生の生徒様、保護者の皆様も、高校入試は遠い将来のことと思わずに、自分の、あるいはお子さんの志望する高校がどのような試験を課すのか、把握していただきたいと思います。

